

「宝塚大学 東京メディア・コンテンツ学部」の“今”を伝えます

報道関係各位

2011年6月



〔作者〕宝塚大学・大学院メディア・造形研究科 博士課程 森 幸子（モリ ユキコ）さん
「緑の森—Green forest—」（版画／W431×H540）

※本作品は、「第1回リー・オンコロジー・オン・キャンパス がんと生きる、わたしの物語。」絵画・写真コンテストで特別賞を受賞しました。詳細は p.8 をご参照ください。

「宝塚造形芸術大学」は、2010年4月に「宝塚大学」へ名称変更しました

＜宝塚大学 東京メディア・コンテンツ学部に関する情報のお問合せ＞

宝塚大学 東京 新宿キャンパス 広報室

担当：金澤、山本 TEL:03-3367-3411

＜ご掲載・写真データ等に関するお問合せ＞

宝塚大学 東京メディア・コンテンツ学部 広報事務局 共同 PR 株式会社

担当：江頭、高橋、菅野 TEL:03-3571-5228

「e顔バッグ」展 開催

5月20日（金）から31日（火）の期間、小田急百貨店 新宿店において「e顔バッグ」展を開催しました。

“震災後の今の日本を少しでも明るく元気になりたい”と、イラストレーションコースの学生が、それぞれの思いを「顔」に託し、エコバッグに「e顔（いいかお）」を表現しました。



似顔絵チャリティイベントの様子

似顔絵チャリティイベントでは、「赤ちゃんを描いて欲しい」という母親や、「孫を描いて欲しい」という年配の方、「飼っているペットや、自分の好きなものを描いて欲しい」という子供たちの要望を受け、学生がエコバッグに似顔絵や動物を描きました。震災でご両親を亡くされたという40代の女性の方からは、「今回、震災で亡くなった両親の写真を元に描いていただきました。実家は震災で流され、思い出の品がほとんど残っていませんでしたので、大切な一品になりました。ありがとうございます」と、感想を寄せていただきました。

坂口 茜さん（イラストレーションコース3年）のコメント：

「イベントに参加して、私の方がたくさんの人たちから笑顔をもらいました。描いた絵を通じて、被災地に笑顔が少しでも届くことを願っています」

「e顔バッグ」展チャリティイベントで集まった募金は、義援金として日本赤十字社に寄付する予定です（募金総額は、後日、宝塚大学WEBサイト上で公開）。



展示作品

1.HOT TOPICS—②

震災避難者のための似顔絵イベントに参加

5月21日(土)に、東日本大震災で被災した約80世帯が入居している新宿区百人町、戸山団地の16号棟集会所で、マンガコース、アニメーションコースの学生による似顔絵描きイベントを実施しました。被災した方々に少しでも何かできればという思いから、学生15人が参加し、似顔絵などをプレゼントしました。

会場では、来場者の似顔絵を描く「似顔絵コーナー」、来場者と一緒に絵を描く「お絵かきコーナー」、プラスチック板に絵を描き、キーホルダーを作る「プラ板コーナー」の3つのコーナーを設けました。

似顔絵コーナーでは、福島県内から避難してきた兄弟や親子連れが訪れ、子供の似顔絵1枚の他に、親子3人での似顔絵を希望する方もいました。1枚の色紙に親子3人の似顔絵を描いてもらい、「家族3人の一生の思い出になります。ずっと大事にします」と似顔絵に感激していました。

上原 愛弓さん(大学院1年)のコメント：

「納得できる似顔絵を描こうと必死になっていましたが、完成品をご両親の元へ送ると後から聞いた時に、自分が大切な仕事をしていたのだとやっと気付きました。絵を描くときの姿勢を正されたような気持ちです」



福島県内から避難してきた
家族3人の似顔絵を描く学生



プラスチック板に絵を描く子供



男の子の顔の特徴をとらえながら
ペンを走らせる学生

1.HOT TOPICS—③



新宿から東北を応援！

「第一回 歌舞伎町アートマーケット」へ出展

6月4日（土）、5日（日）、新宿区大久保公園シアターパークで「第一回 歌舞伎町アートマーケット」が開催されました。本企画は、“新宿から東北へ！みんなで応援する2日間”をテーマに、「文化・アート」を通じて新宿・歌舞伎町から被災地応援、支援活動を行うイベントです。

宝塚大学の出展ブースでは、学生有志による似顔絵チャリティー、学生が制作の切絵短冊を用いたデザイン風鈴「月風鈴」の販売、「e顔バッグ」展で展示したオリジナルエコバッグの販売、マンガ雑誌「NEO」の無料配布を行いました。



川口さんと中山 新宿区長

イベント初日には中山 弘子 新宿区長も訪れ、マンガコース4年の川口 藍さんが中山区長の似顔絵を描きました。川口さんは、「区長がいらっしゃって緊張しましたが、とても楽しく描くことができました。自分のペンネーム（赤野 天道）や、マンガのことを話せて嬉しかったです」と話していました。

芦谷 耕平 講師のコメント：

「口下手だと思っていた学生が、絵を描きながら様々な人に話しかける姿が見られるなど、短時間で学生の成長を感じることができました。また、東北を応援しようという気持ちだけでなく、コースや学年を超えた学生同士のつながりも生まれました。2日間を通じ、“社会とつながる”有意義な体験であったと思います」

エコバッグの販売による収益は日本赤十字社に、似顔絵チャリティーの収益は東日本大震災の被災者を支援しているNPO団体に送られる予定です。

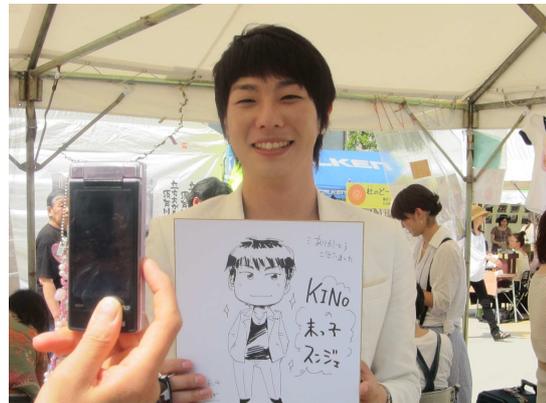


エコバッグの販売



似顔絵コーナーの様子

【第一回 歌舞伎町アートマーケットの様子】



1.HOT TOPICS—④

たちばな いさぎ講師と学生が原作・作画を担当 「マンガでわかる公認会計士」が7月に発売

マンガコース たちばな いさぎ 講師と宝塚大学の学生が原作・作画を担当した「マンガでわかる公認会計士 — 松本 翔の事件簿 —」（イースト・プレス社）が、7月上旬に発売されます。

本書は、LEC 東京リーガルマインドと、イースト・プレス社のコミカライズ（漫画化）企画により実現しました。主人公は、LEC 東京リーガルマインドの専任講師で、公認会計士でもある松本 翔氏がモデルになっており、会計のスペシャリストになるために必要な知識がマンガでわかりやすく学べます。

内容はテーマごとに全5話から構成され、ネーム（原作）は、たちばな講師が全話を担当。1～4話を学生ら4人がそれぞれ作画（5話目はたちばな講師が作画）。マンガコース4年の松本 唯さんの他、大学院生の上原 愛弓さん、酒巻 美沙子さん、卒業生の黒郷 ほとりさんら、宝塚大学チームで本書を描き上げました。

たちばな いさぎ講師のコメント：

「20年以上前に簿記の専門学校で取った資格が、こういうところで役に立つとは思っていませんでした。松本先生には、1回2時間程度の取材を何度かさせていただき、ドラマ性があるようなケースや、ご本人の体験などをうかがい、それからマンガ制作に取りかかりました。また“こういう場合は、どう対処したらいいか？”などの質問に答えていただき、私が作ったプロット（あらすじ）やネームのチェック、コラムの執筆などをお願いしました。」



タイトル：「マンガでわかる公認会計士」
発売日：2011年7月11日（予定）
価格：1200円（税別）
販売：全国の書店

<たちばな いさぎ 講師 プロフィール>

神奈川県横須賀市生まれ。高校卒業後、横浜簿記専門学校入学。簿記専門学校卒業後、建設機械製造会社（株式会社加藤製作所）入社、イラストの仕事・漫画家アシスタントを兼業。二年間の勤務後、白泉社「花とゆめ」誌で漫画家デビュー。結婚・出産後、あおば出版より「ハムハムえぶりばでい」出版。ベネッセコーポレーションでDM（ダイレクトメール）漫画を執筆。白泉社「silky」誌でドキュメンタリー漫画の仕事のほか、「ナチュラル〜障害はあたしのブランド〜」（共著・中経出版）、「あにスペ」誌（イースト・プレス社）で「ひなたの風景」の連載を開始。「あにスペ」休刊後、2010年4月に「ひなたの風景〜聞こえる、犬や猫たちのSOS〜」（イースト・プレス社）を出版。2008年より、宝塚大学 東京新宿キャンパス マンガコースの講師。2010年1月より、「ねこぷに」誌（メディアックス社）で、ねこ漫画の連載を開始。

「第 10 回 CG JAPAN AWARD」 大村 皓一 教授が受賞

2011 年 3 月、大村 皓一 教授（副学長）が「第 10 回 CG JAPAN AWARD」の受賞者に決定したことを受け、6 月 11 日に神奈川工科大学で開催された芸術科学会*1「NICOGRAPH*2 International 2011 & 春季大会」で授賞式が行われました。「CG JAPAN AWARD」とは、CG の分野において「学術研究に貢献し、社会的インパクトを与えた人物」という基準で、芸術科学会*の選考委員会が毎年 1 名から 2 名を選定し、その業績を称えるために制定されたものです。大村教授は、CG 草創期の第一人者であり、長年にわたる CG の技術開発による貢献をはじめ、CG アーティスト、CG 制作者の育成などが評価されました。



大村 皓一 教授

授賞式当日は、渡邊 哲意 准教授が大村 教授の代理で授賞式に参加し、宝塚大学における大村教授の功績について講演を行いました。

<芸術科学会 選考委員会 推薦文>

大村 皓一氏は、日本の CG レベルを世界に見せしめた CG 草創期の第一人者である。大村氏が大阪大学に所属していた時代に、メタボール理論を実用化して、CG の滑らかな形状を実現し、美しいレイトレーシング法でレンダリングを実現した。当時レイトレーシング法による 3 次元 CG は描画が遅いのが欠点であった。それを高速に描くために、複数の CPU を並列計算させた専用コンピュータリンクスの開発に貢献した。当時、CG エンジニアだけでなく、美しい CG を作る CG アーティストの必要性を察し、河口 洋一郎をはじめ、福本 隆司や、木村 卓など、たくさんの CG アーティストの育成に貢献し、若者に CG 制作への夢を与えた功績は大きい。後に、リンクスを使って CG を作成する会社として(株)トーヨーリンクスという会社を作り、「ゴルゴ 13」や NHK スペシャル「人体」などの CG 映像制作を行った。CG の技術への貢献だけでなく、本人の天衣無縫な人柄と才能は、CG 制作者の育成、社会への貢献など、功績はとても幅広い。

*1 芸術科学会 (The Society for Art and Science) は、21 世紀において益々重要性を増すと考えられる芸術と科学の融合領域を対象とする学会。主にメディアアートの分野で年次大会や各種研究会、講演会の開催、会誌発行などの活動を行なう。

*2 NICOGRAPH は、1985 年以来旧 (社)日本コンピュータ・グラフィックス協会が実施してきた CG やマルチメディア分野の論文コンテスト。その後、(財)マルチメディアコンテンツ振興協会 (MMCA)を経て、2000 年より芸術科学会が主催。本コンテストは CG やマルチメディア関係の論文コンテストとして長い歴史を持ち、日本の CG・マルチメディア関係者の恒例行事となっている。国際会議 NICOGRAPH International は、日本国内とアジア各国を隔年で開催。

<大村 皓一 教授 プロフィール>

大阪大学工学部通信工学科卒業。同大学大学院工学研究科博士課程通信工学専攻修了。工学博士（1968）。1982 年に世界で初めて CG システム「LINKS-I」を発表。1983 年、映画『ゴルゴ 13』の CG 製作総指揮、1985 年「筑波 EXPO' 85」富士通パビリオンの CG テクニカルディレクターを担当するなど日本の CG 界の第一人者。著書に、『メジャーリーグ VS. 日本野球—スウィング理論の冒険』（講談社現代新書）など。担当授業は、映像造形概論など。現在、宝塚大学 副学長、大学院 研究科長。

1.HOT TOPICS—⑥

「がんと生きる、わたしの物語。」 絵画・写真コンテスト

森 幸子さんが特別賞を受賞

本学・大学院に在籍する森 幸子さんが、「がんと生きる、わたしの物語。」 絵画・写真コンテスト（主催：日本イーライリリー株式会社）において、絵画部門の特別賞を受賞しました。

本コンテストは、がんと生きる患者さん、およびそのご家族・支援者を対象に、絵画・写真とエッセイを募集したもので、全 60 作品（絵画・写真）の中から森さんの作品「緑の森—Green forest—」（およびエッセイ）を含む 6 作品が選ばれました。

5 月 27 日に行われた授賞式の壇上で、森さんは「このような賞をいただき大変嬉しく思います。作品を制作していた時は、ちょうど抗がん剤治療中でしたが、大村 皓一 先生をはじめ、宝塚大学の先生方のご指導と励ましにより、作品を完成させることができました。作品を制作している時間は自分が癌患者であることを忘れていられたので、逆に癒されました。この作品のように、これからも前進していきたいと思います」と、受賞の喜びを語りました。



絵画部門 特別賞 森 幸子(モリ ユキコ)氏
「緑の森—Green forest—」(版画/W431×H540)

<作品の説明文>

高校 3 年生の頃、右胸にしこりを見つけました。当時(30 年前)は、乳がんの情報や調べる手段も見つけられず、18 歳の処女(おとめ)は、胸を切除されるのならこのまま死にたいと思いました。結局、母に病院に連れて行かれ、診断結果は乳腺線維線種‘良性’でした。この‘良性’の腫瘍は徐々に大きくなり、32 歳の夏、右胸 2 箇所の部分切除手術を行いました。

その後、毎年、定期検診を行っていましたが、毎回、‘良性’と診断されるので、油断をしていました。検診を怠っていたわずか 5 年の間に、両側乳がんが 4 cm 以上進行していたのです。乳がんと告げられた時はショックでしたが、現在の乳腺外科手術は進歩しており同時再建も可能です。16 人に 1 人が乳がんにかかる日本で、私だけが特別ではない気がしました。

私にとって、胸の腫瘍は高校生からの付き合いです。癌となった以上、すべてを切除し、人生を良い方向にリセットしようと考えました。また、5 年間で‘悪性’のものに変わった理由を考え、今までの人生を振り返ってみました。思い返してみると、食生活や睡眠、介護や仕事のストレスなど、48 歳の身体には過重な負担を懸けていた事に気がきました。これからは、生活習慣を見直し、人間として正常に機能できる人生を送ろう、女性として内面から美しくなる人生を送ろうと決意しました。

がんと共に生きることは、命を大切に自然と共に生きることと考え、自分自身を緑(自然)に表現し、これからの人生を前向きに生きる為に、前進している作品を制作しました。

<みなさんへのメッセージ>

このコンテストを通して感じたのは、写真や絵を描くことは、内側に向けたベクトルが解放されることでした。芸術は様々な不安や心の痛みを解放できる重要な要素なのではないでしょうか。日々の積み重ねがその人の人生をつくります。大切なのは、死なないこと、楽しむこと、知ることです。

※詳細につきましては、日本イーライリリー株式会社のホームページをご覧ください。 <https://www.lilly.co.jp/>

1.HOT TOPICS—⑦

じょうめ 城芽 ハヤト 講師

第 42 回 講談社出版文化賞で「さしえ賞」を受賞

城芽 ハヤト 講師が、講談社主催の「第 42 回 講談社出版文化賞」で「さしえ賞」を受賞しました。

「講談社出版文化賞」は、挿絵、写真、装幀、絵本の各分野の作家に贈られる、1970 年から続く講談社主催の賞です。前年 3 月 1 日から当年 2 月末日までに刊行された図書を対象とし、さしえ賞、写真賞、ブックデザイン賞、絵本賞の四部門の賞を選考します。

城芽 講師は、「さくらの結婚」(樋口 毅宏 作/「小説宝石」掲載)、「美しい家」(新野 剛志 作/「小説現代」掲載)、「雨のなまえ」(窪 美澄 作/「小説宝石」掲載)、「新月譚」(貫井 徳郎 作/「別冊文春」掲載)の挿絵作品で今回の受賞となりました。



贈呈式で挨拶する城芽 先生

城芽 ハヤト 講師のコメント:

なんとか自分を出したいと思いつけて描いてきましたが、徐々に無駄な力が抜けて、ただ文章を手助けできる絵を描くことに移行し出した矢先の受賞でした。今は、描き手が違えばおのずと個性は出るものだと思っています。自分にはきらめくような才能はありませんが、持続力はあったようです。よかった。



(左、中央)「美しい家」(新野 剛志 作/「小説現代」掲載)、(右)「新月譚」(貫井 徳郎 作/「別冊文藝春秋」挿絵)

<城芽 ハヤト 講師 プロフィール>

1955 年秋田県横手市生まれ。武蔵野美術大学造形学部油絵学科卒。在学中より仕事を始め、卒業以降フリーランスのイラストレーターとして活躍。80～90 年代には 30 本あまりの映画・ドラマに美術協力に参加。現在は、書籍カバー・小説誌などの雑誌挿画・絵本などを主なフィールドとし、人物などをモチーフに活躍している。授業では、「イラストレーションⅡ」「イラストレーション表現」「プレゼンテーション実習」などを担当。

1.HOT TOPICS—⑧

マンガコース卒業生の作品が 「月刊 G ファンタジー」に掲載

コミック雑誌「月刊 G ファンタジー」（スクウェア・エニックス社）が開催するマンガ賞「ほぼ 8 マンガバトル」に、卒業生の和田 浩子さん（ペンネーム：オペラ座のキノコ）の作品『Rundown』が採用され、同誌の 6 月号に掲載されました。

「ほぼ 8 マンガバトル」は、約 8 ページのマンガの面白さを競う、勝ち抜き方式のマンガ賞です。1 号につき 3～4 作品が掲載され、読者からの投票を最も集めた掲載者が勝ち残り、3 回連続で勝ち抜くと、G ファンタジーでの読み切り掲載権を獲得するシステムです。

今回採用された和田さんの作品『Rundown』は、マフィアのボスを兄に持つ双子の弟が、殺し屋から命を狙われるというストーリーで、10 ページという短編ながらスリルあふれる展開となっています。



<和田 浩子(オペラ座のキノコ)さん 受賞歴>

- 2010年 「第 27 回 G ファンタジーコミックオーディション」奨励賞
「月例コミックブレイド マンガ大賞 NEXT 11 月期」奨励賞
- 2011年 オンラインカード RPG 「ヴァンディアブレイカー」“神樹の歌姫” 決定イベント 2 位

1.HOT TOPICS—⑨

渡邊 哲意 准教授の台湾旅行プランが 台湾観光局出版のガイドブックに掲載

渡邊 哲意 准教授が企画した台湾旅行プランが、台湾・交通部観光局が出版したガイドブック「世界で最高の旅 旅達人のおすすめ 50 コース」に掲載されました。2009年、台湾観光局が「世界で最高の旅」をテーマに、旅の企画をネットで世界中から募集し、渡邊 准教授の旅行プランが見事採用されました。本年は、台湾観光局が推し進めている「台湾旅行・感動 100」の年にあたり、本書が刊行されました。

渡邊 准教授とアーティスト伊丹谷 良介氏が提案した旅行プランのテーマは、「台湾のロックシーンを探れ!」。本プランは文化・芸術分野にノミネートされ（英語、中国語、日本語で紹介）、WEB サイトでは動画で視聴が可能です。“達人コース”には、台北、台中、高雄のライブハウスめぐりなどが組み込まれており、台湾の中でも地域によって異なるロックシーンや音楽文化を体験することができる旅行プランです。



※旅達人の旅行記録と画像は、<http://www.taiwanbesttrip.net/jp> でもご覧になれます。

「台湾のロックシーンを探れ!」：渡邊 哲意 / 伊丹谷 良介

21 世紀に入りアジアのロックシーンは大きな発展を遂げています。特に中華圏での発展が目覚ましく、台湾はその中でも大きなけん引役となっています。日本のインディーズミュージシャンも国内にとどまらず、国境を越えアジア各地で活動を行う時はそう遠くありません。

今回は台湾をターゲットにロックミュージックが文化としてどれくらい浸透しているのか調べました。音楽文化を調べるのにお金はそれほどかかりません。音楽文化は人々の日常生活の中に存在します。

私たちは楽器店・CDショップ・ライブ会場などを回り、現地の人たちからロックや音楽文化についてヒアリングを行いました。今回の旅の提案が、国境を越えた多くのミュージシャンや音楽ファンがアジアで活動する原動力の一つになればと思います。

<渡邊 哲意 准教授 プロフィール>

宝塚造形芸術大学大学院メディア・造形研究科博士（芸術学）。中華圏のミュージックエンターテインメントの表現方法について研究を実施。これまでに、北京・深セン・香港などの中華圏の音楽イベントにスタッフとして参加したほか、国内においてクラシックコンサートのディレクターやデザインも手がける。授業では、「ロックミュージック概論」、「マルチメディアデザイン」などを担当。

<伊丹谷 良介 氏 プロフィール>

宝塚造形芸術大学大学院修士課程終了。1999 年より中国大陸へ渡り、外国人として初めてロックコンサートの全国ツアーを成功させ、2004 年ファーストアルバム『Hello Mr.Asian』発売。台湾、香港などでライブを行い、香港でのラジオヒットチャートで"Hello Mr Asian"が 7 位にランクイン。現在、東京を拠点に、アジアを中心とする国内外で音楽活動を展開中。

2.各コース紹介

イラストレーションコース

授業紹介

キャラクターデザイン（専門科目）〔 受講学年：2年 担当教員：高田 美苗〕

この授業では、“ファンシーキャラクター”の造形デザインを学びます。“ファンシー”とは、本来は動物愛好や装飾を表す英語であり、日本国内では15歳以下の子供向けの、可愛いらしい外観を意味する形容詞として用いられます。それらを備えたキャラクターを、入稿用データ作成を前提に、Illustrator、Photoshopを用いて制作します。授業を通して、企業向けのキャラクターや子供向けお菓子・文具、学習教材に使えるキャラクター等を描ける技術の習得を目指します。



学生の作品にアドバイスを送る高田先生(右)

7回目となる授業では、これまでに「人物」「生物」「機械」をモチーフに各自がデザインしたキャラクターの中から、実際に商品化できそうなものを選び、そのロゴマークを制作しました。フォントの加工方法などのオリジナルロゴの制作手法を解説した後、各学生からの技術的な質問や相談に対してレクチャーをしながら、アドバイスをしました。

授業の中で、高田先生は、「作品ができたと思った段階で終わらせずに、もうひとつ工夫を加えてブラッシュアップすることで、その人らしさが表れ、より素晴らしい作品になる」と、一度完成したものをさらに磨き上げようとする姿勢の重要性を学生に伝えました。



デザインしたキャラクターの下書きに
Illustratorで線入れをする様子



ロゴをデザイン

3.教員紹介

古瀬 登 准教授

アニメーションは「映像」を意識して学ぶこと

ほぼ毎日、多い時は一日で2～3本の映画を自宅で見ます。これは昔から変わらない習慣で、映画はなんでも好きですね。アニメーションを仕事とする上で、映画を見ることはとても必要な要素だと思います。自分でアイデアが欲しい時に見ることもあるし、以前に見た映画の“あのシーンはどういう感じだったか”を確認する為に見ることもあります。

ディズニーの昔の作品やクラシックと呼ばれているものは特に好きです。「トムとジェリー」などのアメリカンアニメは僕らの世代。仕事を始め出した頃にビデオが普及して、ビデオを見て自分で勉強しました。



古瀬 登 准教授

アニメーションはマンガと違って、絵だけではなく、映像です。絵を動かすスピードやタイミングが重要で、音も入ってくる。また、マンガであれば効果を意識してコマを大きくしたり小さくしたりすることが可能ですが、アニメは撮影フレームが決まっています、すべて同じサイズで撮影します。同じ枠の中でアップもあれば引きもあり、1秒間に24コマという点でも映画と同じ共通項が多くあります。作画だけであれば、描き続けることで絵は上達しますが、映像を学ぶ意識がないとアニメーターとしては厳しいでしょう。

アニメーターとアニメーションの演出家の仕事は随分と違って、演出家はその作品の核になる存在です。やらなければならない仕事がたくさんあり、別な視点でモノを見て、たとえ好きでない事でも調べあげて作品に投下しなければなりません。一本の作品に100人から200人が関わって作品が制作されるので、コミュニケーション能力も重要となります。

最近はデジタル化が進み、音楽を個人で制作することもできるので、一人で全ての工程を担うことも可能です。卒業制作では、個人で作品を創りあげた学生が何人もいました。現在のアニメーションでは、かなりの割合でデジタル化されてきており、各プロダクションでは専門のデジタル部門が存在します。今後、学生の将来の仕事の選択肢として、こうしたデジタル分野での道も開けてくるのではないのでしょうか。

<古瀬 登 准教授 プロフィール>

1955年、東京生まれ。アニメーター。東京デザイナー学院グラフィックデザイン科卒業。「スプーンおばさん」(1983)、「うる星やつら」(1984)、「エースをねらえ! 2」(1988)、「ルパン三世」TVスペシャル(1989)、「頭文字D」(1998)、「鉄腕アトム」(2001)、「ブラック・ジャック」(2005)等の作品の作画監督及びキャラクターデザイン担当。

4.今後の予定

■ 宝塚大学 東京メディア・コンテンツ学部「オープンキャンパス」

日 時：2011年6月19日（日）

内 容：大学紹介、体験授業、入試説明、個別相談、キャンパスツアーなど

■ 第33回 柳町親和会・薬王寺商工会 主催 七夕まつり

日 時：2011年7月3日（日）

内 容：学生有志による似顔絵描き（無料）を予定